

平成30年度第2回国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時 平成31年 2月7日(木) 13:00～14:20
場所 国立岩手山青少年交流の家 第1研修室

出席者 〈施設業務運営委員〉

大石 泰夫	盛岡大学 文学部 教授
細川 健一 〈代理〉	滝沢市教育委員会 生涯学習スポーツ課 主任主査
今野 勝美 〈代理〉	宮城県教育庁 生涯学習課 社会教育専門監
佐藤 精晋	盛岡市立厨川中学校 校長 (岩手県中学校長会副会長)
千田 貴浩 〈代理〉	岩手県教育委員会 生涯学習文化財課主幹兼生涯学習担当課長
高橋 雅寛 〈代理〉	滝沢市子ども会育成連合会 事務局長
高橋 繁雄	一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 理事
藤原 秀一 〈代理〉	秋田県教育庁 生涯学習課 主任社会教育主事
宮野 祐樹	一般社団法人盛岡市青年会議所 副理事長
横澤 繁一	岩手県レクリエーション協会 理事長
平山 健一 〈代理〉	青森県教育庁 生涯学習課 社会教育主事

欠席者 浅沼 道成	岩手大学 人文社会科学部 教授
安倍 哲矢	滝沢市立一本木小学校 校長
岩渕 健一	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
菊池 啓子	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
関 潤	岩手県PTA連合会 副会長
眞下 卓也	(株)IBC岩手放送 取締役 放送本部長兼編成局長
吉田 幸司	八戸市教育委員会 教育部長

〈職員〉

松田所長、小岩次長、東主幹兼総務係長、佐々木主任企画指導専門職、上村副主任企画指導専門職、松本企画指導専門職、林田企画指導専門職、田口事業推進係長、藤根事業推進専門職、小綿管理係長、成田管理係員、椎名総務係員

1 挨拶 (所長)

2 日程・資料の確認 (次長)

3 施設業務運営委員及び職員の紹介

4 委員長・副委員長の確認

事務局から、議事進行を委員長に引き継いだ。

5 「新しい公共」の管理運営について

次長から、資料に基づき「新しい公共」の管理運営の概要、昨年度設置した3部会の活動状況及び、来年度の活動目標について説明があった。その後委員長から、次年度は、さらなる活発な部会の活動のもと、「新しい公共」の管理運営を行っていききたい旨確認がされた。

6 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明等

①平成30年度の運営状況説明

- 1) 今年度、新規事業「ツール・ド・I☆B」及び施設看板事業の「タートルズキャンプ」、今年度で終了となる「テンちゃん一家の一週間」事業の成果等について、企画指導専門職から説明を行った。
- 2) 法人ボランティアの登録者数・活動状況について、企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 昨年度及び今年度12月までの利用者数・満足度などについて、事業推進係長から説明を行った。なお、今年度の利用者数については昨年度より減少しており、特に宿泊者数での減少が多い旨報告があった。

②平成31年度の運営状況・計画等説明

- 1) 平成31年度の事業方針の概要について、所長から説明を行った。
- 2) 平成31年度事業等計画について、企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 平成31年度の利用申し込み状況等について、事業推進係長から説明を行った。なお、申し込み状況について昨年の同時期より減少しており、特に学校団体の減少が多い旨報告があった。

③協議

意見・質疑応答

委員：利用促進部会長として部会での活動ではないが、利用者増加のため、出席したいくつかの会議、報告会で岩手山青少年交流の家の広報をしていた旨、この場をもって報告いたします。

委員長：一委員としての広報活動に対して感謝申し上げる。広報については構成員全体の問題のため、それぞれが利用者増加のため、引き続き対応いただきたい。

委員：30年度の事業について、男子が参加したいと思う企画が多いと感じられるが、募集対象について何か意図をもって企画しているか教えてほしい。

岩手山職員：今回事業報告した「ツル・ド・I☆B」については男子の応募が圧倒的に多かった。同じく報告した「テンちゃん一家の一週間」についても、募集時には応募者の性別を想定していたわけではないが、結果的に女子のほうが少なめとなった。

委員：来年度からの新規事業について、滝沢市国際交流協会と連携するなど、行政と連携していただき感謝申し上げます。滝沢市としても地域課題解決学習という視点での事業を予定しており、岩手山青少年交流の家での事業と重なるところもあると思うので、引き続き連携協力をお願いしたい。

委員長：利用者の大幅な減少の要因について説明してほしい。

岩手山職員：今年度は中学校の利用減少が大幅な利用者数減少の要因と考えられる。ただ、高校・専門学校等の入学オリエンテーション、勉強合宿等が減少しているのも要因の一つとなっている。中学・高校の利用は10年前と比べて、半分、3分の1程度まで減少しており、背景には、バス代の高騰や、宿泊事業自体が短期化及び廃止となっていることが挙げられる。

委員長：利用者減少が続くことについて、所長に一言いただきたい。

所長：施設としても毎年度、利用者数の数値目標が定められている。例えば、宿泊稼働率については50%以上を確保することが一つの目安とされており、当施設は現在52～53%となっている。その中で、利用者数減少の大きな要因とされている学校団体の減少については、種々要因があり、これまでと同様の使い方では利用が見込めなくなっているため、いわゆる自然体験という形のみではなく、小・中学校については学習指導要領に対応する活動プログラムの提供、農業体験や職場体験での利用等、多様な体験を提供し、学校等に魅力を発信していきたいと考えている。また、それ以外のスポーツ団体や、企業等一般団体についても広報は必要なので、委員の皆様にも引き続き協力をお願いしたい。

委員：滝沢市としても地域、団体、企業、市町村等ネットワーク型の社会教育行政を展開していく必要がある。「新しい公共」がこれを担う組織でもあると思うので、幅広い分野で連携協力が必要と感じた。

委員長：「新しい公共」は意見のあった通り、先述された通りの組織であると思われる。そのため、委員の皆様には、所属している部会の事業に尽力いただき、広報等につなげていけるようお願いしたい。

委員長：新設した活動プログラム等については、どのように広報する予定か説明してほしい。

岩手山職員：教育委員会や事業所に赴き、直接的に活動プログラムについて説明し、盛岡近辺ならびに岩手県全域、東北地域に広報していきたいと思っている。

委員：学校等に対して学習指導要領に沿った活動プログラムの提供をしていくということだが、実際に指導案の形で用意されているのか。

岩手山職員：小学校については指導案についても用意してある。中学校については、それぞれの学校で作成するもののため、こちらとしては参考という形になるが、用意している。ただ、用意はしているが学校等での日程調整もあると思うので、広報のタイミングが重要と考えている。

委員長：今回の討議を踏まえて、所長から一言お願いしたい。

所長：施設としても新規事業を企画するなどしているが、利用者数が伸びていないところもあるので、次年度はさらに魅力あるプログラム、積極的な広報を進めていきたい。それには、構成委員、ならびに地域のネットワークは非常に大事なので、委員の皆様には委員会以外の場面でもご意見、ご協力をお願いしたい。

審議の結果、本会議において説明された平成31年度の計画等について、委員の意見を取り入れた上で、交流の家に一任して実施していきたい旨が委員長から提案され、承認された。

以上